

いりしかべつ
入鹿別川水系河川整備計画

平成23年5月

北 海 道

入鹿別川水系河川整備計画

目 次

第1章 対象流域と河川の現状	1
第1節 流域及び河川の概要	1
第2節 河川の現状と課題	4
第2章 河川整備計画の目標に関する事項	8
第1節 計画対象区間	8
第2節 河川整備計画の対象期間	8
第3節 洪水などによる災害の発生の防止又は軽減に関する事項	10
第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持並びに 河川環境の整備と保全に関する事項	10
第3章 河川の整備の実施に関する事項	11
第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の 施行により設置される河川管理施設の機能の概要	11
第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	12
第4章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携などに関する事項	13
第1節 河川に係わる調査・研究などの推進	13
第2節 河川情報の提供の促進	13
第3節 地域や関係機関との連携	13
入鹿別川水系河川整備計画・付図	14

第1章 対象流域と河川の現状

第1節 流域及び河川の概要

入鹿別川^{いりしかべつがわ}は、北海道^{ほくほく}勇払郡^{ゆうはつぐん}厚真町^{あつまちょう}とむかわ町の町界に接する無名山（標高294m）にその源を発し、山岳部を西方に流れ鹿沼沢川^{しかぬまざわがわ}などの支川と合流した後、河口付近でほぼ同じ流域面積を持つ支川の長沼川^{ながぬま}、ポロクラ川と合流し、太平洋に注いでいる流域面積 54.6km²、幹川流路延長 15.6km の二級河川である。

流域は厚真町・むかわ町の2町により構成されている。

河川名の由来は、一説によると、アイヌ語のイルシカ・ペツ（irushka-pet 怒る・川）の意と言われている。



SP1200 支川合流点付近（下流域）



SP4500 付近（中流域）

(1) 地形・地質

流域の地形は、主に上流域が標高100～290mの大起伏丘陵地、中流から下流域にかけて標高20～100mのローム台地及び三角州性低地となっており、入鹿別川はこれらを侵食しながら流下している。

流域の地質は、上流域に先第三紀の半固結～固結堆積物である泥岩が分布し、中流から下流域にかけて沖積世の未固結堆積物である砂及び粘土が広く分布している。

(2) 気候

流域の気候は、太平洋側気候区に属しており、夏は涼しく、秋冬は晴天の多い比較的温かな気候を呈している。

流域内の年平均降水量は約1,000mmと北海道の平均降水量と比較して少なく、年平均気温は約7℃で北海道の平均気温と比較して寒冷的な地域である。

(3) 人口・産業

流域は厚真町とむかわ町にまたがっており、入鹿別川の西方に位置する厚真町の人口は、昭和25年頃をピークに、その後、離農者の都市への移転や出生率の低下などの要因により減少し、平成17年国勢調査では約5,200人となっている。

一方、東方に位置するむかわ町（旧^{むかわ}鵜川町）の人口は、昭和35年頃をピークに、その後、都市部への人口流出などにより徐々に減少し、平成17年国勢調査では約6,800人（平成18年に旧^{ほべつ}穂別町との合併により約10,600人となる）となっている。

厚真町の基幹産業は、稲作を中心とした農業となっており、厚真川水系から生まれた「厚真米」は高品質と評判であり、また、平成13年にはブランド米の「胆東米」の拠点施設となる「たんとうまい（胆東米）ステーション」が完成し、米流通業界の中で高く評価されている。林業としては、広大な森林地帯を利用した木炭生産などがあげられる。漁業では、ホタテ増殖漁場の確保のほか、シシャモや、カレイの王様として知られるマツカワの種苗放流など資源管理型の漁業が盛んである。

一方、むかわ町の基幹産業も稲作を中心とした農業となっており、高品質米の産地として知られている。また、気候風土の特性をいかした「ほべつメロン」や、「むかわ和牛」の名前で人気の高い黒毛和牛などの生産が盛んに行われているほか、花卉栽培は全国有数の産地となっている。林業としては、間伐材などを有効利用した木質ペレットの製造が注目されている。漁業では、むかわ町の

魚として知られる「鵜川ししゃも」があげられ、毎年 10 月下旬になると、商店の店先に並んだシシャモのすだれ干しを見ることができる。また、シシャモとサケのふ化事業のほか、ホッキやホタテの養殖、マツカワの稚魚の放流なども盛んに行われている。

(4) 観光・レクリエーション施設

下流域には、むかわ町内に位置する^{たうら}田浦野球場や運動公園パークゴルフ場などの運動施設が整備されており、レクリエーションの場として利用されている。

また、自然とのふれあいの場所として、ふれあい農園が下流域に整備されている。



運動公園パークゴルフ場



ふれあい農園

(5) 土地利用

流域の約 50%が山林であり、約 50%が畑・水田・原野となっており、中下流に広がる三角州では、厚真町とむかわ町の主要な産業の 1 つである農業が盛んに行われ、水田・畑などの耕作地として利用されている。

また、流域内には道央圏と日高地方^{ひだか}を結び、農林水産業などの地域経済を支える日高自動車道、国道 235 号、J R 日高本線などの重要施設が下流で横断している。

第2節 河川の現状と課題

(1) 治水の現状と課題

入鹿別川における治水については、昭和30年から昭和40年にかけて戦後の開拓事業を支援する目的の特殊河川改修事業により河口から約9kmにわたり流路の是正や河道の拡幅が行われている。

しかし、近年、豪雨の発生が増加傾向にあり、平成13年9月の台風15号により農地約120ha、平成15年8月の台風10号により農地約110ha、平成18年8月の豪雨により家屋1戸と農地約200haもの甚大な浸水被害が発生していることから治水安全度の早期向上が課題となっている。

なお、入鹿別川流域内の全市町村(厚真町、むかわ町)は「日本海溝・千島海溝特措法推進地域」に指定されている

平成18年8月の被災状況



SP2100 付近



SP2100 付近



SP3000 付近



SP3000 付近

(2) 河川の利用及び河川環境の現状と課題

河川の利用については、河口部の海岸線において釣りが行われているほか、支川長沼川の上流に位置する長沼は野鳥の観察ポイントとして多くの愛好者が訪れる場所となっている。

また、長沼のとなりに位置する大沼には大沼野営場及び大沼^{おおぬま}フィッシングパークが整備されており、夏場にはキャンプや釣りを楽しむ人々の姿を見ることができる。



入鹿別川河口部（釣りを楽しむ姿が見られる）



長沼



大沼野営場・大沼フィッシングパーク

水利用としては、農業用水として約 195ha の水田でかんがい^{かんがい}に利用されているほか、工業用水としても利用されている。

水質については、「公共用水域における生活環境の保全に関する環境基準」による類型指定はされていないが、平成20年8月及び10月の調査結果によると、BODの平均値が河口部で1.2mg/l と A 類型に相当し、中流域の道道入鹿別橋地点及び上流域の豊願橋^{ほうがん}地点で1.0mg/l と A A 類型に相当し、概ね良好な水質となっている。

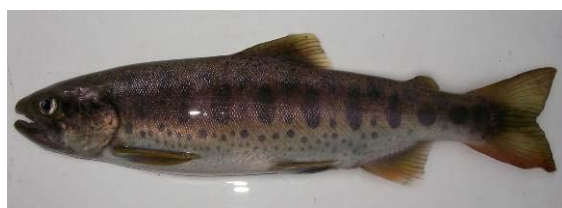
自然環境については、深緑の山肌に沿って流下する上流域は、右岸は広範囲にわたり水田などの耕作地として利用されており、左岸側は山付きとなっている。

ミズナラ、ケヤマハンノキ、シラカンバなどが山から河岸にかけて繁茂しており、アオジ、ヒヨドリ、キジバトなどの鳥類が見られる。

河床勾配は約 1/30~1/200 であり、川の中には、礫の隙間にドジョウ、フクドジョウ、ハナカジカ、小落差によって形成された淵にシベリアヤツメ、サクラマス（ヤマメ）などの魚類が確認されているが、横断作工物に魚道が設置されておらず、魚類の遡上に支障となっている。



上流域の河道状況



サクラマス（ヤマメ）



シベリアヤツメ

田園地帯をゆったりと流れる中流域は、両岸の堤防付近まで水田や畑などの農地として利用されており、まとまった河畔林はほとんど見られないが、ヨシ、クサヨシ、キクイモなどが堤防から河岸にかけて繁茂しており、スズメ、アオジ、ムクドリなどの鳥類も見られる。

河床勾配は約 1/300~1/500 であり、礫を主体とする河床には小さなみお筋が形成され、エゾウグイ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ウキゴリなどの魚類が確認されている。



中流域の河道状況

長沼川、ポロクラ川両支川が合流することで流量が増え、川幅も比較的広がっている下流域では、兩岸に農地が近接し、まとまった河畔林はほとんど見られないが、堤防から河岸にかけては、ヨシ、クサヨシ、キクイモなどが繁茂し、ヒヨドリ、カワラヒワ、アオジ、ムクドリなどの鳥類も見られる。

河床勾配は約1/1,000であり、河床材料は砂礫や砂が主体となっており、砂の堆積も見られる。

また、潮位の影響を受ける区間が長く、河口付近ではボラ、ウキゴリ、アシシロハゼなどの魚類が確認されている。



下流域の河道状況



ヒヨドリ

アオジ

このような瀬や淵、河岸植生、河畔林などの多様な自然環境を保全するとともに、魚類の遡上・生息に配慮し、河道の連続性を確保することが課題である。

参考文献等 植物：平成20年8月、9月調査
鳥類：平成20年10月調査
魚類：平成19年10月調査

第2章 河川整備計画の目標に関する事項

河川整備の基本方針としては、水害発生状況、河川利用の現況、河川環境の保全を考慮し、入鹿別川水系河川整備基本方針との整合を図り、整備に当たっての目標を明確にして、河川環境に配慮した治水対策を推進することとする。

第1節 計画対象区間

河川整備計画の対象区間は、下記の表に示す入鹿別川水系の北海道知事管理区間とする。このうち、優先的に整備を実施する区間は、入鹿別川の河口から上流8.7kmとする。

表2-1 計画対象区間

河川名	北海道知事管理区間		優先整備区間
	対象区間	延長	延長
入鹿別川	下流端：海 上流端：左岸 勇払郡むかわ町字二宮274番地先 右岸 勇払郡厚真町字鹿沼61番地先	L=8.7km	L=8.7km
長沼川	下流端：入鹿別川への合流点 上流端：勇払郡厚真町字鹿沼338番地先	L=3.2km	—

第2節 河川整備計画の対象期間

本整備計画は、入鹿別川水系河川整備基本方針に基づいた河川整備が当面の目標であり、その対象期間は河川整備計画策定から概ね30年とする。また、優先整備区間の整備は整備計画策定から概ね10年を目標とする。

本計画は、現時点の流域の社会状況・自然状況・河川状況に基づき策定されたものであり、策定後のこれらの状況の変化や新たな知見・技術の進歩などの変化により、必要に応じて見直しを行う。

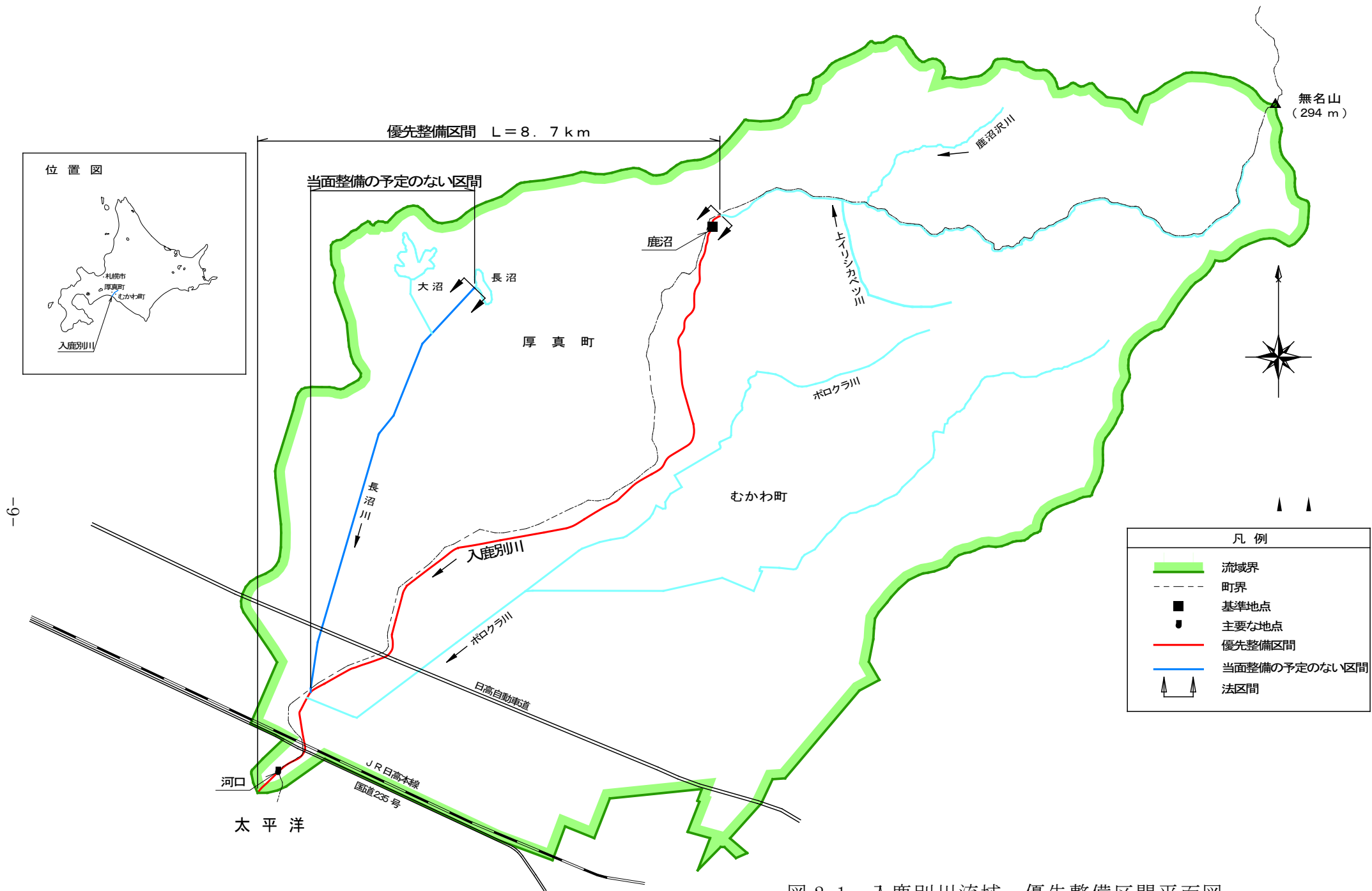


図 2-1 入鹿別川流域 優先整備区間平面図

第3節 洪水などによる災害の発生防止又は軽減に関する事項

入鹿別川水系河川整備基本方針に基づき、水害発生の状況、河川の利用状況、河川環境の保全、河川周辺の土地利用などを考慮し、平成18年8月の洪水を踏まえ、河道の掘削などを行い、家屋や農耕地などの洪水被害を防止・軽減することとする。

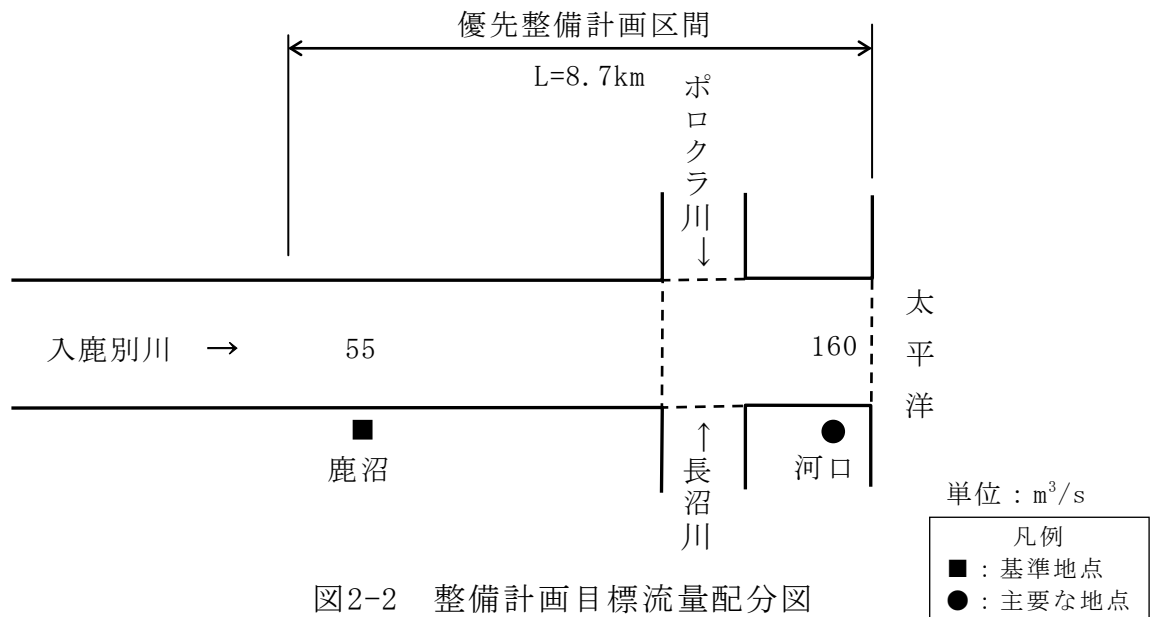


図2-2 整備計画目標流量配分図

第4節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持においては、現在、農業用水や工業用水として利用されており、魚類などの良好な生息環境、良好な水質であることから現況流況の維持に努めるものとする。

入鹿別川ではこれまで記録として残っている渇水被害は生じていないが、流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況などの調査を行い、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持などを考慮して定めるものとする。

河川環境の整備と保全に関する事項については、サクラマス（ヤマメ）やシベリアヤツメなどの魚類が確認されていることなどから、良好な自然環境を保全するとともに、関係機関と連携しながら、河道の縦断的な連続性を確保するなど環境への影響を極力軽減するように努めるものとする。

工事の実施に当たっては、学識経験者などの意見を聞きながら魚類などの生息環境に配慮し、山際の河畔林や淵などの現況低水路を極力保全するように努めるものとする。

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

(河川工事の目的)

平成18年8月の洪水を踏まえて、河道掘削などの河川工事を行うことにより、流下能力の確保を図り、洪水氾濫防止・軽減に努めるものとする。
また、豊かな河川環境に配慮して現況河床及び河岸の保全に努める。

(河川工事の種類)

堤防の設置、河道の掘削、護岸の設置

(施行の場所)

入鹿別川の河口から8.7km地点までの区間

(河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要)

主要地点における計画高水位及び川幅などについては付図に示す。

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

(1) 河川の維持の目的

河川の維持管理は、地域の特性を踏まえつつ、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全など、総合的な観点から、適切な実施に努めるものとする。

(2) 河川の維持の種類

(河川の巡視及び点検)

平常時は定期的に河川巡視を行い、河川管理施設の状況、河岸や河道内の状況などを把握する。

出水時は降雨や河川水位の状況から、河川管理施設の状況や異常の発生の有無を把握するため河川巡視を行う。

出水後、地震後、津波後などは河川管理施設の総点検を実施し、被災状況を把握し、再度災害に備える。

(河床の維持)

河床の低下は、護岸構造物の基礎が露出するなどにより災害の原因となるため、定期的な河川の巡視により、早期発見に努めるとともに、河川管理上の支障となる場合には、適切な処置を行う。長期の間に、または出水により土砂が堆積し、洪水の流下の阻害となるなど治水上支障となる場合は、水辺環境の保全に配慮し、掘削などの対策を講ずるものとする。

(伐採、除草による維持)

河川環境への配慮から、沿川の河畔林は極力保全するものとするが、流水の阻害や河川管理施設に悪影響を与える樹木については、動植物の生息・生育の状況や景観などに配慮しながら伐採する。また、地域の協力を得ながら除草などを行う。

(護岸の維持)

護岸については、法崩れ、亀裂、陥没などの異常について、定期的な河川の巡視により、早期発見に努めるとともに、河川管理上の支障となる場合は適切な処置を行う。

第4章 河川情報の提供、地域や関係機関との連携などに関する事項

第1節 河川に係わる調査・研究などの推進

必要に応じ水質調査や河川周辺の生態調査などを行い、データの収集に努め、河川改修後の環境への影響などについての調査・研究を関係機関の協力を得ながら継続して実施していく。

第2節 河川情報の提供の促進

河川に関する情報を積極的に提供するとともに、地域住民の自由な意見を求めていく。

また、洪水による被害の軽減を図るため、パトロールなどにより水位情報を収集し、関係機関へ速やかな情報の提供を行い、水防活動の支援などを迅速に行う。

また、計画規模や現況流下能力を超える洪水に対して極力被害の防止・軽減を図るため、ハザードマップ作成の支援などを行う。

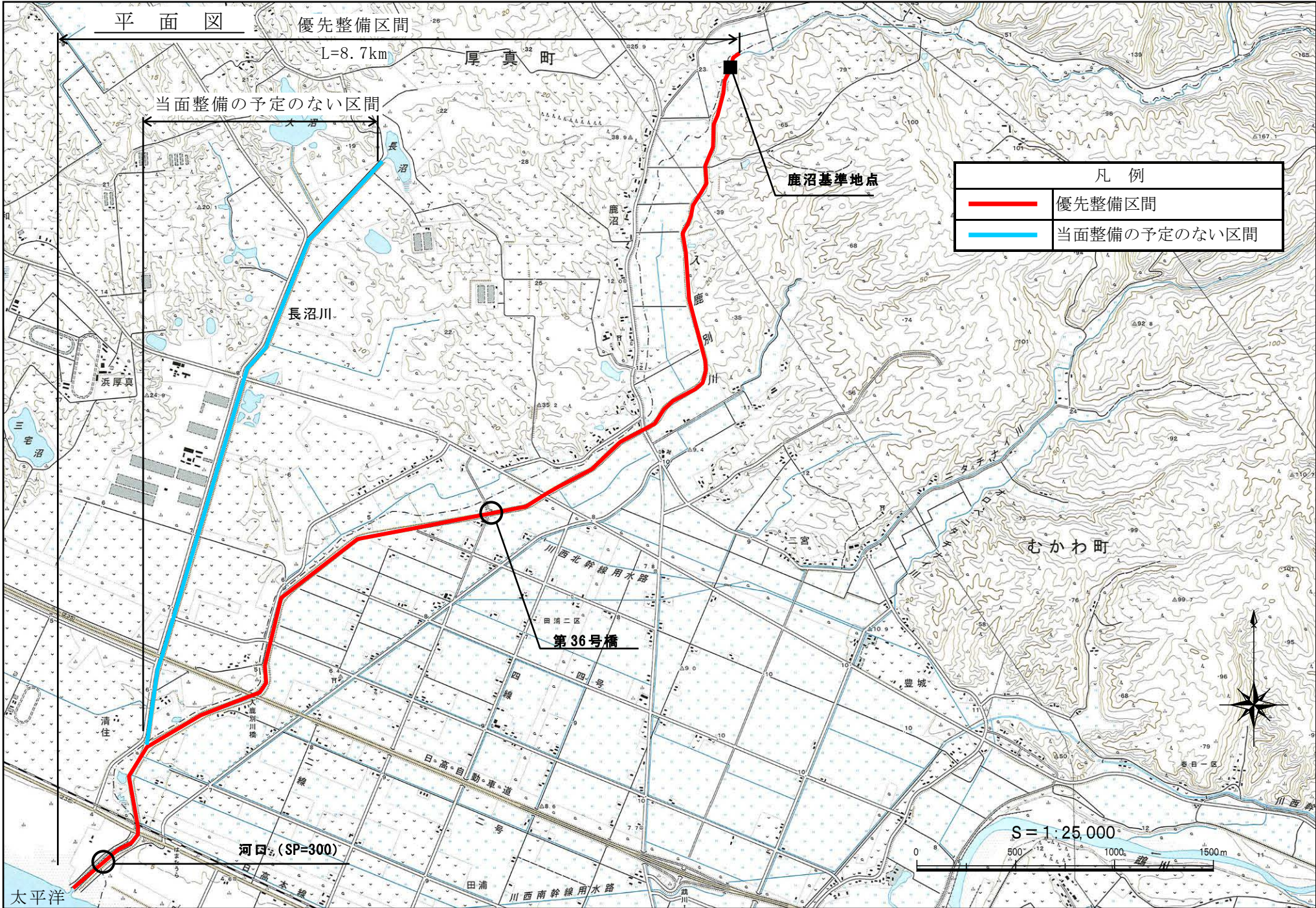
第3節 地域や関係機関との連携

地域の住民に親しまれる川づくりを進めるためパンフレットや看板などにより、河川愛護思想の普及や啓発に努める。

また、地域の河川愛護活動と連携し、住民参加による河川環境の保全に努める。

洪水の発生や異常濁水及び水質事故に対して、関係機関と連携し、被害の軽減に努めるものとする。

入鹿別川水系河川整備計画・付図



平面図

優先整備区間

L=8.7km

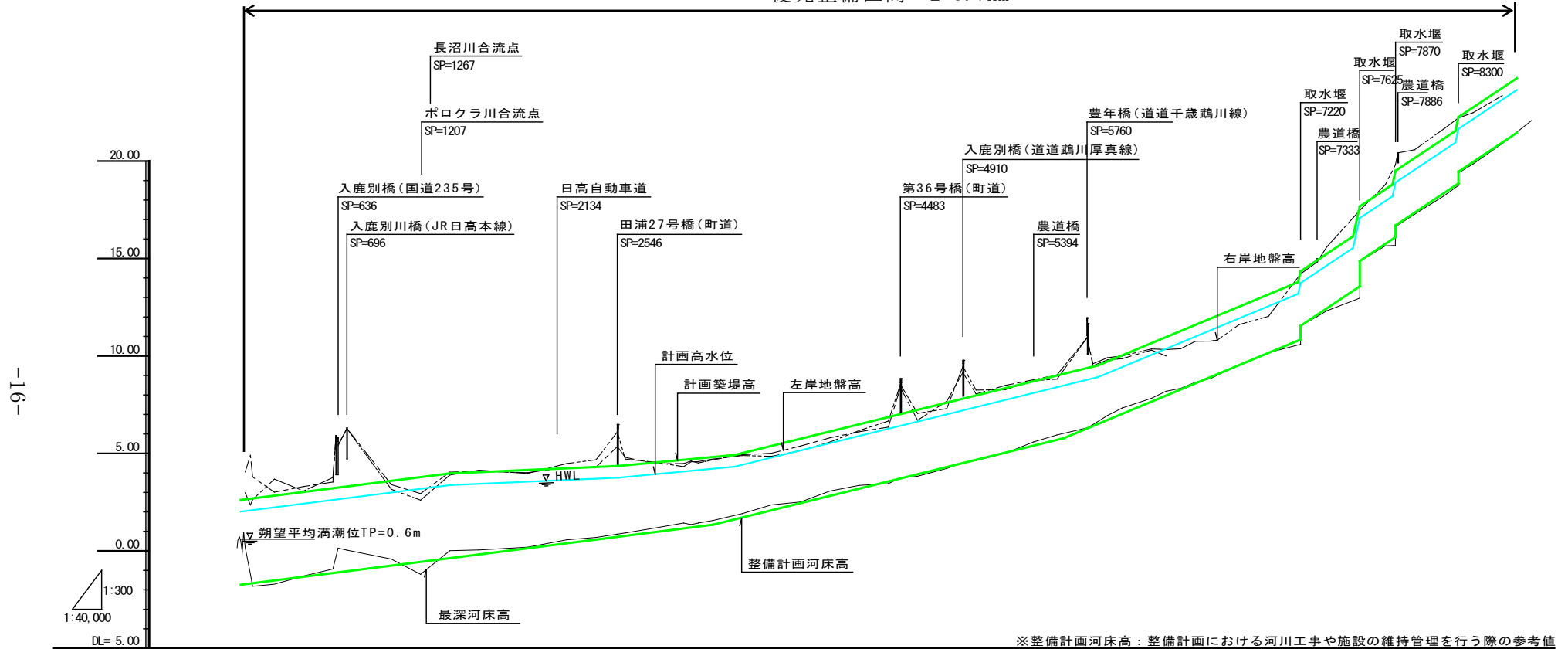
当面整備の予定のない区間

鹿沼基準地点

凡例	
—	優先整備区間
—	当面整備の予定のない区間

縦断図

優先整備区間 L=8.7km

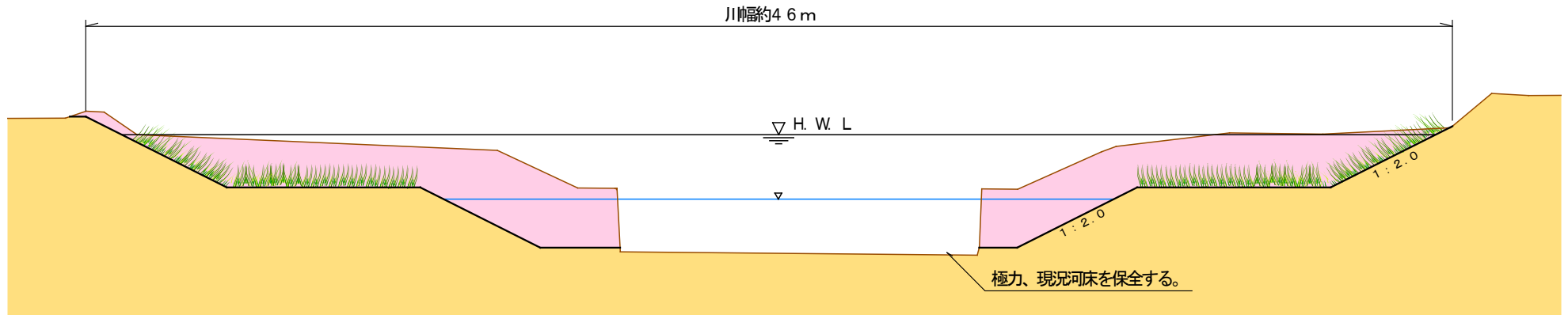


※整備計画河床高：整備計画における河川工事や施設の維持管理を行う際の参考値

計画築堤高	—	2.61	2.92	3.97	4.35	4.81	4.92	7.02	7.05	9.08	9.52	13.24	13.84	16.37	17.67	18.90	21.65	22.25	24.25
計画高水位	—	2.01	2.32	3.37	3.75	4.21	4.32	6.42	6.45	8.48	8.92	13.24	13.74	15.71	17.07	18.30	21.05	21.65	23.65
同上勾配			1/1050	1/3000	1/1400			1/540				1/320				1/200			
整備計画河床高	—	-1.74	-1.43	-0.38	0.72	1.34	1.62	3.72	3.75	5.78	6.52	10.84	11.54	13.57	14.87	16.10	18.85	19.45	21.45
同上勾配				1/1050				1/540				1/320				1/200			
地盤高	右岸	—	3.68	3.89	4.71	4.71	8.54	8.81	8.81	14.21	17.47	14.21	17.47	19.80	22.21	24.25			
	左岸	—	3.01	4.04	4.67	4.67	8.38	9.03	9.03	14.21	17.47	14.21	17.47	19.80	22.21	24.25			
在来河床高	—	0.51	1.71	0.01	1.56	3.75	3.75	5.95	5.95	10.60	11.56	12.97	14.86	15.67	18.75	19.39			
測点		-30	300	1400	2550	3200	3349.44	4483	4500	5600	5835.64	7220	7625	7870	8300	8700			

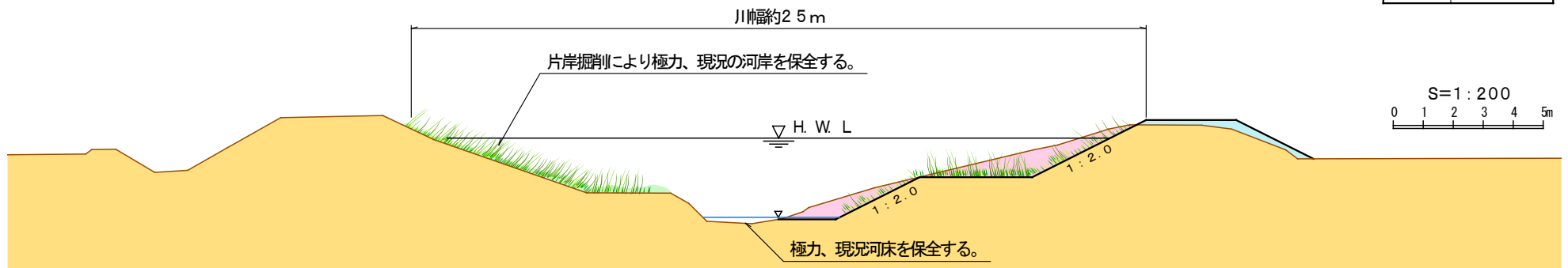
横断図




河口 (SP=300) 付近



-17-

第36号橋上流 (SP4500) 付近



凡例	
	現況地盤線
	河道掘削
	堤防整備

